

上泉太郎三前遺跡

マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



粕川村出土文化財管理センター

序

豊かな水に潤われ、日本屈指の年間日照時間を誇る赤城山の南麓に位置する本遺跡の所在地は、緩やかに延びる山裾が、旧利根川の流路に接する位置に当たり、田畑の縁に恵まれた地域です。周辺は近年徐々に宅地化の様相を見せてはいるものの、農業基盤を主とした経済活動を中心とし、今も赤城型民家の存在を認めることもできます。

太郎三前には、かつては調査地北方の一段高い地形にお堂があり、左右に房があり、その門前から南北に如意輪観音風の石像が左右に並んでいたとのことでした。

谷を挟んだ西側の丘陵上には木福様と呼ばれる石像物が埋められ、祭日のみに掘り起こされて祀られ、昔年の前橋花柳界の篤い信仰を得たとのことですが、先のお堂は木福様を守護する役目もあったのではないかと思います。縁日には子供たちがごぞつて、供えられたお団子を下げ取って食べたということです。家に持ち帰ることは禁じられ、それを食べると風邪をひかないと言い伝えられたようです。太郎三とは太郎左房もしくは太郎房への敬称が変化した可能性が考えられる字名です。

このような古い伝承を残した地に、発掘調査を実施したところ、今から五千年程前の縄文時代の住居址を初め、貴重な埋蔵文化財が新たに見つかり、前橋市の古代史をさらに書き加えることとなりました。

終わりにりましたが、このように貴重な資料を得ることが出来たのも、開発者木村正氏の援助と、天候不順にもかかわらず、精力的に調査に従事して下さった関係諸機関と発掘作業員の皆様のおかげによるものと、心からのお礼を申し述べて序といたします。

平成10年12月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利

例 言

- 1 本報告書は、都市計画法第29条の規定する民間開発（マンション建設）に伴う上泉太郎三前遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 前橋市上泉町1472-1
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（理事長渡辺勝利）の指導のもとに、開発行為者木村正氏（前橋市上泉町1454-2）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役須永貞弘）が実施した。
調査担当者 古歴秀登・眞塚明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
新保一美（スナガ環境測設株式会社）
- 4 調査期間 平成10年9月7日～平成10年9月30日
整理期間 平成10年10月1日～平成10年11月30日
- 5 調査面積 280㎡
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永貞弘、調査担当…新保一美、測量・実測…荻野博巳・権田友寿・勝田貞幸・内山恵美子・石川サワ子、写真撮影…荻野博巳・勝田貞幸、安全管理・表土掘削…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…新保一美、編集…須永貞弘、校正…金子正人、校正・遺物写真撮影…荻野博巳、実測図作成・整理…権田友寿、遺物洗浄…石川サワ子・内山恵美子・都丸藤子、注記…新保一美・柴崎信江、復元…都丸保男、遺物実測・拓本…佐々木智恵子、内業事務…須永豊が担当した。
- 9 調査に参加した方々（敬称略）
石川サワ子 内山恵美子 都丸藤子 中川住一

凡 例

- 1 遺跡の位置の基準
基準点 国土地理院の三角点および水準点 座標系 第IX系
A・0点座標値 X 44,312.000m Y -64,088.000m 水準点 BM.1 109.00m
- 2 遺跡の位置図
国土地理院発行2万5千分の1「前橋」を加筆して使用した。
- 3 実測図の縮尺
遺跡平面図 S=1:400(全体図) 遺物撮影 S=1:8 遺物実測図 S=1:2を原則とした。
遺構実測図 S=1:80を原則とした。 これら以外の縮尺を使用したときは、その都度表示した。
- 4 遺構の略号は次のとおりである。
縄文時代住居=J 土坑=D 平安時代住居=H ビット(柱穴)=P
- 5 土層断面の土色は農林省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人 日本色彩研究所 色票整備 新版標準土色帖による。
なお、土層断面の略号及び注記については、9～10ページに一括して記載した。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
I 発掘調査の経緯	2
1 発掘調査に至る経緯	2
2 発掘調査の経過	2
II 発掘調査の概要	2

1 基本土層	2
2 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
III 検出された遺構と遺物	3
1 縄文時代・平安時代	3

挿図目次

第1図 標準層位	2	第5図 J-2・J-3・J-5 住居址平面・断面図	6
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡図	3	第6図 J-4 住居址平面・断面図	7
第3図 遺構全体平面図	4	第7図 出土遺物実測図・拓影	7
第4図 J-1・II-1・H-2 住居址平面・断面図	5	第8図 出土遺物拓影	8

写真図版目次

図版1 遺構全景写真	4	図版3 出土遺物写真	9
図版2 出土遺物写真	8		

I 発掘調査の経緯

1 発掘調査に至る経緯

平成10年7月30日、木村正氏より前橋市教育委員会に対して上泉町のマンション建設予定地内での埋蔵文化財の有無について確認の問い合わせがあった。これに対し、市教育委員会では、開発予定地内の試掘調査を実施する必要があると、その結果を判断する旨回答した。

平成10年8月12日に試掘調査を実施したところ、縄文時代に帰属すると思われる遺物の散布が認められ、縄文時代の住居址が存在することが確認された。

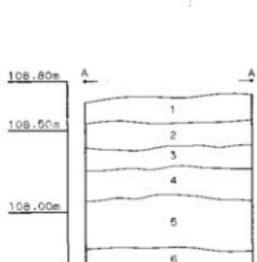
以上の結果に基づき、開発者との間で埋蔵文化財の保護・保存について協議を行ったが、当初計画を変更することは困難であることから、やむを得ず発掘調査を実施して、記録保存を行うこととなった。

2 発掘調査の経過

平成10年9月7日に資材を搬入し、ただちに表土掘削を開始した。翌日調査範囲の西側部分には土蔵があって、その建築時に著しく下層がカクランされていることが確認され、西側40%には古代遺構の存在する可能性が少なくとし、前橋市教育委員会の指導の下にこの範囲は地層断面及び平面測量調査を主とした。

II 発掘調査の概要

1 基本土層



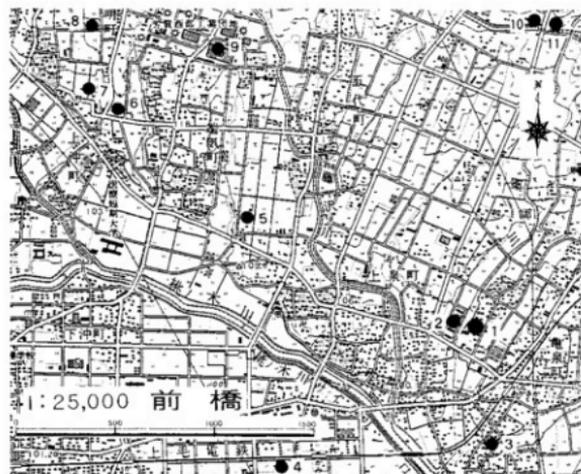
第1図 標準層位 S=1:30

- 1 埋土
- 2 表土(暗い灰褐色)中締弱粘細砂
- 3 暗灰色中締中粘微砂 As・Cわずかに混入
- 4 暗褐色弱締中粘細粒ローム藩移層
- 5 黄褐色中締中粘細粒ソフトローム
- 6 明黄褐色高締中粘細粒ハードローム

2 遺跡の位置と周辺の遺跡

上泉太郎三前遺跡は、赤城山の南麓終端部に位置し、県都前橋市と桐生市を結ぶ上毛電鉄赤坂駅の北西約300mの赤城山麓南斜面に位置し、東西を開折谷によって取り残された舌状台地上にある。南西150mに位置する桑原遺跡は谷地にあり、FAによって覆われた水路数条と住居址が存在し、古墳時代の

水田址が存在する可能性がある地域である。北方1.6kmには奈良三彩を出土した檜峰遺跡、檜峰古墳、北西2km程には端気遺跡群・小神明遺跡群や前橋市が跨る遺跡の一つである芳賀団地遺跡群のうちの芳賀西部団地遺跡群等が存在する。



第2図 遺跡の位置と周辺遺跡図

- 1 上泉太郎三前遺跡
(本遺跡)
- 2 桑原遺跡
(FA堆積の水路・住居址)
- 3 石岡女堀遺跡
(中世の大規模用水路)
- 4 茶木田遺跡
(奈良・平安～中世)
- 5 大日塚古墳
- 6 縄文遺跡群
(縄文・弥生・古墳時代)
- 7 谷福遺跡
(古墳・奈良・平安時代)
- 8 小神明遺跡群
(縄文・古墳・平安時代)
- 9 芳賀西部団地遺跡
(縄文・弥生・古墳時代)
- 10 檜峰遺跡
(奈良三彩小甕出土)
- 11 檜峰古墳

Ⅲ 検出された遺構と遺物

1 縄文時代・平安時代

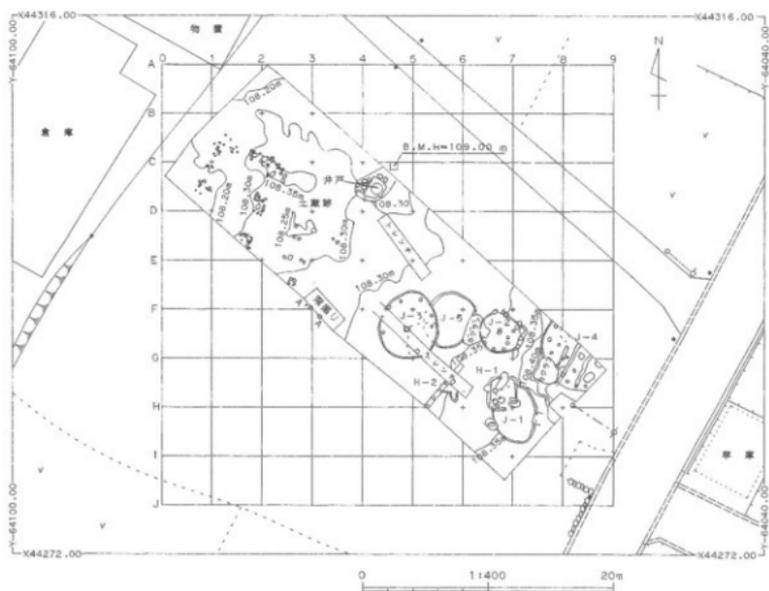
J-1はH-1と重複し、炉址は確認できなかった。楕円形を呈する物と思われる。南西部に縄文土器片を伴出する土坑が重なる。B-B'ライン上には左右に焼け石があり、入り口状の配置と考えられた。西側の石は径30cm程の蜂の巣石である。遺物は波状突起に微面をかたどった鉢の波状突起部(表紙写真)がH-1から出土するが、細隆線への斜め刻み文様の特徴からJ-1に本来帰属する物と判断した。他に深鉢2点、口径44.6cmと42cm(巻末写真)、LR縄文を施した同底部、金雲母を含む浅鉢、石斧などを検出する。当然ながらJ-1の方がH-1より古い。J-2は円形で北側2穴は壁柱穴となる。炉址は検出されなかった。東側に溝状、西側には掘込まれたカクランにより完全な形状ではない。主な遺物は深鉢1点。他に黒曜石片を検出する。J-3はやや長円形。炉址は明確ではない。遺物は深鉢、浅鉢を主とする。細隆線に斜め刻みを入れた文様体、連続C字刺突文の他に太めの沈線文様を直線に配する深鉢口縁部に棒状突起を2つ、それよりも大きめの突起をそれらの右に貼付する深鉢口縁部が1点出土する。さらに石斧・スクレイパー・石皿・摺り石・窪み石等のほか多量の安山岩を主とする剣片を検出した。J-4は本遺跡最大の住居址と思われるが、半分は調査区外となる。根の侵入により焼土は確認できなかったが、残存状況から判断して、石組みの炉体部があったと思われる。遺物は半截竹管による連続刺突の木の葉文をモチーフとする壺型土器の口縁部と浅鉢を主とする。また肋骨文と称される割部片も検出する。J-5は楕円形もしくは長方形と思われるが、東側はカクラン、西側はJ-3と重複し、定かな形状は判別できない。炉址は検出できない。160gの黒曜石塊を出土。深鉢、浅鉢を主な遺物とする。J-3の壁面がJ-5の重複部分に残ることからJ-5の方がJ-3よりも古いと考えられる。木の葉文の深鉢口縁部を検出したが、J-2の出土遺物と結合する。これはカクランを受けたため、それに伴って遺物が移動したためと思われる。

H-1はJ-1のほぼ中央部にカマド主体部を有し、ここを中心に羽釜2点と軟質陶器の高台塊5点、塊2点、いわゆるカワラケの灯明皿2点、壺底部、灰軸磁器の高台部片を出土する。カマド主体部のみの残存ではあるが、H-2からは軟質陶器高台塊2点の他灰軸磁器の高台塊1点が体部の8割がたを残して出土する。このカマド右袖下からも縁線に刻みを施した縄文土器片を検出するが、自然木の根が広範囲に及んでいたため、確認トレンチでもプラン確認には至らなかった。また、井戸東の北側試掘トレンチ内にもカマド状の焼土を確認したが、コンクリート塊が挟まるなど、破壊状況を示しており、遺物もガラス片などが検出された状況であり、焼土の主軸方位が一致することから、カマドであった可能性が高いと考えられる。

J-1・J-3及びH-2カマド西脇から銀雲母を多量に含む片岩が摺り石状を呈して数点検出された。縄文土器片中にこれと同質の銀雲母が多量に混入された土器片が検出されたが、土器製造に際してこの片岩が磨かれて粘土中に混入された可能性が高いものと考えられる。

本遺跡は、出土遺物の大半が浮線に斜め刻みを施しており、またJ-3号住居址からはそれらと併行して口縁部に二割一對の棒状突起と、それよりも大きな突起を連続して貼付したことが窺える羽状沈線を持つ鉢の破片が出土している。従って、縄文時代前期終末に当たる諸磯Ⅱ式期の最も新しい時期から同Ⅱ式期にかけての移行段階に該当する可能性が考えられる。今回の調査では明確な炉址は検出できなかったが、J-3号住居址を中心に多量の石の剣片が出土しており、重複するJ-5号住居址からは、黒曜石の塊が出土している。J-2・J-3・J-5号住居址からは明確な炉址の検出がみられないことも考慮に入れると、これらの遺構が石器にかかわる作業場的な遺構であった可能性も考えられよう。

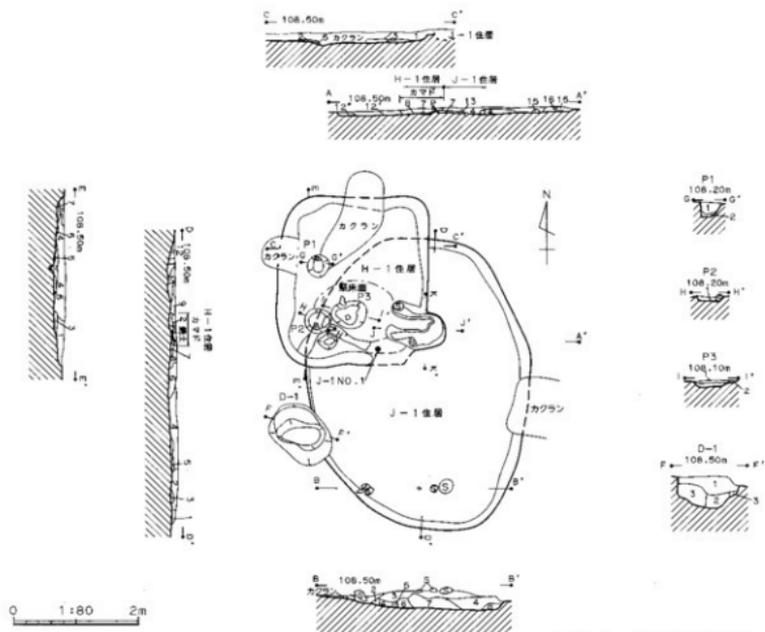
平安時代の住居址については、土器の検出がH-2号住居址からの竪1点のみであり、H-1号住居址の羽釜2点以外は全て軟質陶器を用いている特徴がある。両時期の遺構とも日利根流路との関わり、深い示唆を与えてくれる結果となった。



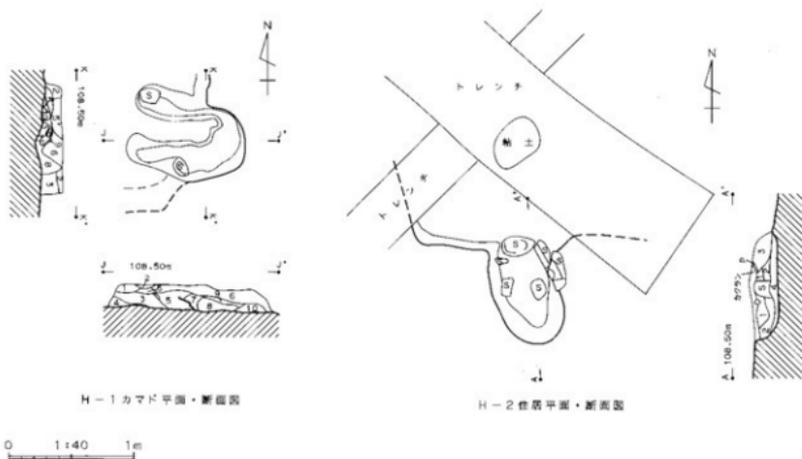
第3図 遺構全体平面図



図版1 遺構全景写真



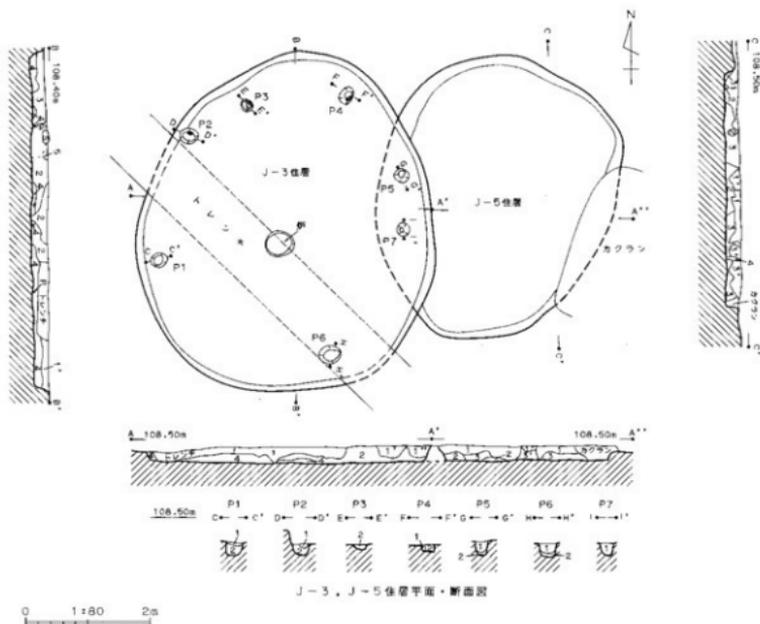
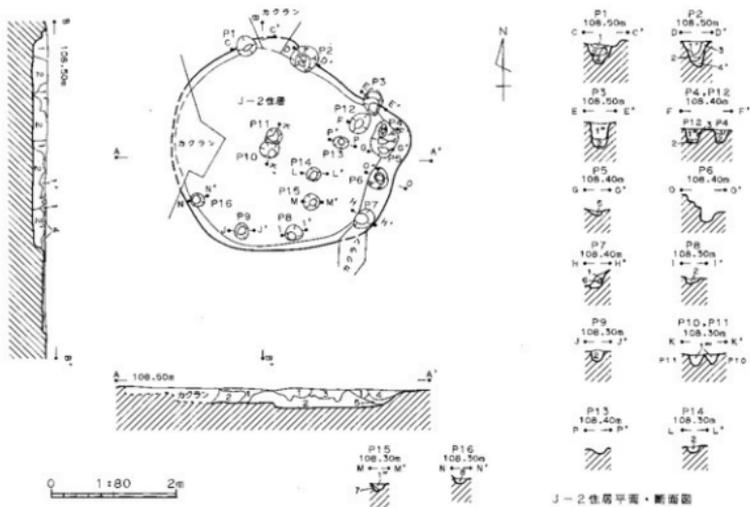
J-1, H-1住居平面・断面図



H-1カマド平面・断面図

H-2住居平面・断面図

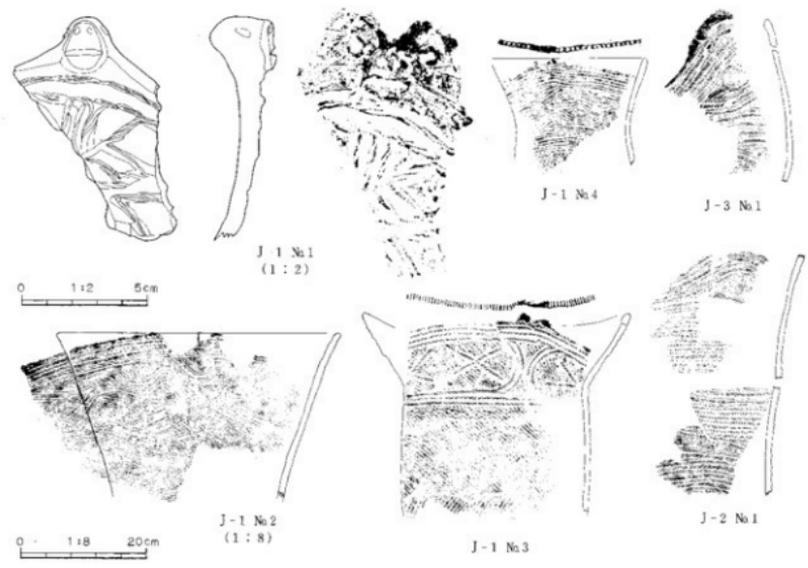
第4図 J-1・H-1・H-2住居址平面・断面図



第5図 J-2・J-3・J-5住居址平面・断面図



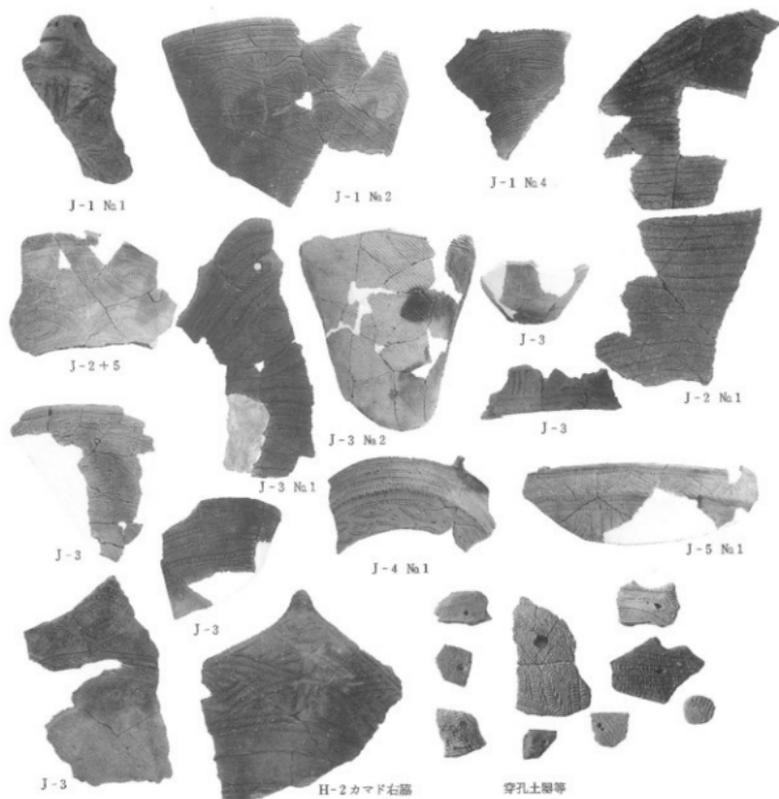
第6図 J-4住居址平面・断面図



第7図 出土遺物実測図・拓影



第6図 出土遺物拓影



図版2 出土遺物写真



上段 出土縄文土器群
中段 出土石器群
(最左端上は黒曜石塊)
下段 平安時代住居址
出土土器群

図版3 出土遺物写真

各遺構土層断面図記表

注 土層記号にあたっては、次の名称号を用いた。

Hr	厚名山	As	浅間山
Hr-FP	9世紀中葉降下礫石	As-B	1100年降下礫石
		As-C	4世紀中葉降下礫石
		As-D	縄文時代中葉降下礫石
AT	船具式山噴出物	As-YP	淡陶-飯島黄褐色石
		As-BP	淡陶-飯島黄褐色石

J-1地層

- 1 灰褐色中細中粘質砂 As系白色軽石5%・遺物粒3%含む 炭化物あり
- 2 1より細い細砂 As-C3%含む
- 3 褐色中細中粘質砂 赤土3%含む 炭化物あり
- 4 暗褐色中粘中粘質砂 As-C・Hr-FP各3%含む 遺物粒あり
- 5 褐色中粘中粘質砂 As-D3%含む ATあり
- 6 暗褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%・As-C・As-D・As系白色軽石2%含む
- 7 暗褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%含む 灰色粘土・黒土あり
- 8 灰褐色コロイド粗砂 礫粒Hr-FP3%含む
- 9 黒褐色中粘中粘質砂ラミナ
- 10 褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%含む
- 11 褐色中粘中粘質砂 As-YP3%含む
- 12 灰褐色中粘中粘質砂

J-1 (B-B'面) セクション

- 1 暗褐色中粘中粘質砂
- 2 暗褐色中粘中粘質砂 As-YP・As系白色軽石を含むローム層砂層
- 3 暗褐色中粘中粘質砂 As-C5%含む As-D・As-YPあり 遺物粒3%含む
- 4 暗褐色中粘中粘質砂 As-C3%含む ヴームブロック・遺物粒あり
- 5 暗褐色中粘中粘質砂 As-YP・As系白色軽石を含むロームと4層の4/6混土
- 6 灰褐色中粘中粘質砂 As-C3%・ロームブロックを含む (炭と粘土をわずかに含む)
- 7 灰褐色中粘中粘質砂 As-C5%・As-YP2%・ローム粒を10%含む
- 8 暗褐色中粘中粘質砂 遺物粒3%・炭化物を含む
- 9 黒褐色中粘中粘質砂ラミナ
- 10 褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%含む
- 11 褐色中粘中粘質砂 As-YP3%含む
- 12 灰褐色中粘中粘質砂
- 12' 12にHr-FP3%・遺物粒3%含む
- 13 暗褐色中粘中粘質砂 As-D3%含む
- 14 暗褐色中粘中粘質砂 As-YP・As系白色軽石3%含む
- 15 暗褐色中粘中粘質砂 As-YP3%含む
- 16 黒褐色中粘中粘質砂 As系白色軽石3%含む

H-1セクション

- 1 黒褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%混入

- 2 黒褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%混入
- 3 1層にぶい白褐色粘土10%混入 石あり
- 4 カクラン
- 5 ヴーム層砂
- 6 褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%含む
- 7 5層と6層の3/5混土

H-1カマドセクション

- 1 灰褐色中粘中粘質砂 粗粒Hr-FPあり
- 2 暗褐色中粘中粘質砂 Hr-FP3%含む 遺物粒あり
- 3 ローム層砂 (赤褐色中粘中粘質砂) に焼土・遺物粒あり
- 4 ローム層砂 (赤褐色中粘中粘質砂)
- 5 2層に焼土30%混入
- 5' 2層に濃灰土・赤土粒10%混入
- 6 2層に灰と赤褐色粘土粒10%混入
- 8 2層に暗褐色土がトップ30%混入
- 9 1層に黄褐色中粘中粘質砂粘土
- 10 2層に灰色・赤褐色粘土50%混入

H-1ピットセクション

- P-1
- 1 暗褐色中粘中粘質砂コロイド粗砂 ローム粒あり
 - 2 As-YP混入ローム
- P-2
- 1 暗褐色中粘中粘質砂コロイド粗砂 ローム粒3%含む

P-3

- 1 黒色中粘中粘質砂 粘性のある灰色土を含む
- 2 黒色中粘中粘質砂 1層とAs-YP混入ロームの6/4混土

D-1セクション

- 1 灰褐色中粘中粘質砂コロイド粗砂 ローム粒・As-C各1%含む
- 2 暗褐色中粘中粘質砂コロイド粗砂 ローム粒を含む
- 3 黒褐色中粘中粘質砂コロイド粗砂 ローム粒を30%含む

H-2セクション

木下の傾によるカクランのため不明瞭

H-2カマドセクション

- 1 灰褐色中粘中粘質砂 焼土粒5%混入
- 2 暗褐色中粘中粘質砂 焼土混入
- 3 暗褐色中粘中粘質砂 黒土粒30%混入
- 4 1層に黄褐色中粘中粘質砂 焼土と粘土を5%含む (傾り方) 炭化物もわずかに含む

J-2セクション

- 1 灰褐色中粒粘結砂 As-C3%・As-YP1%・ローム粒10%含む
- 1' 灰褐色中粒粘結砂 As-B5%・Hr-FP1%含む 硬あり
- 2 暗褐色中粒粘結砂 As-As白色粒7.5%・As-YP1%を含むロームと1層の5/5混土
- 2' 2層の腐食化(根の侵入による)
- 3 暗褐色中粒粘結砂 小礫を含む As-B5%含む
- 4 灰褐色粘結粘粒砂 As-BF3%・微小礫2%含む
- 5 黒褐色中粒粘結砂とローム層移層に砂5%混入

J-2ビットセクション

- P-1 5・P-7 12・P-14 16
- 1 暗褐色中粒粘結砂 ローム粒3%含む
 - 1' 暗褐色中粒粘結砂 ローム粒7%含む
 - 2 1層よりも粗粒 凝結硬質
 - 2' 1層にローム粒10%含む
 - 3 灰褐色中粒粘結砂 ローム粒30%含む
 - 3' 灰褐色中粒粘結砂 ローム粒5%混入
 - 4 褐色中粒粘結砂 ローム層移層とHr-FPありの5/5混土
 - 4' 褐色中粒粘結砂 ローム層移層
 - 5 黒褐色中粒粘結砂 As-C3%小礫火山灰あり
 - 6 暗褐色ハードロームAs系白色粒3%混入
 - 7 灰褐色粘結粘粒砂 As-YP混入ローム層移層
 - 8 暗褐色中粒粘結砂 ローム層移層に砂5%混入

J-3セクション

- 1 黒褐色中粒粘結砂 As-YP3%含む As-Cあり
- 2 暗褐色粘結粘粒砂 As-C3%・ロームブロック15%含む
- 3 暗褐色中粒粘結砂と4層の5/5混土
- 4 褐色中粒粘結砂 Hr-FPあり As-YP2%・As系白色粒5%含む
- 5 暗褐色粘結粘粒砂 As-YP3%・遺物粒2%含む
- 6 暗褐色中粒粘結砂 As-YP3%・As系白色粒3%含む

J-3ビットセクション

- P-1
- 1 褐色粘結粘粒砂 ローム粒・遺物粒あり
 - 2 褐色粘結粘粒砂 ローム粒・遺物粒あり

P-2

- 1 褐色粘結粘粒砂 As-YP混入ロームと砂の5/5混土
- 2 暗褐色粘結粘粒砂 As-YP混入ロームと砂の5/5混土

P-3

- 1 黒灰色粘結粘粒砂(根の侵入混)
- 2 褐色中粒粘結砂 As-YP3%・As系白色粒1%混入

P-4

- 1 灰褐色粘結粘粒砂(根の侵入混)
- 2 暗褐色粘結粘粒砂 As-YP混入ロームと砂の6/4混土

P-5

- 1 黒色粘結粘粒コロイド粗砂
- 2 As-YP混入ローム層

P-6

- 1 褐色粘結粘粒砂 ローム粒3%
- 2 褐色中粒粘結砂 As-C3%混入のロームと砂の5/4混土

P-7

- 1 暗褐色粘結粘粒コロイド粗砂とローム粒3%の6/4混土

J-4セクション

- 1 暗褐色粘結粘粒砂 As系白色粒3%・ATあり
- 2 暗褐色粘結粘粒砂ローム
- 3 褐色粘結粘粒砂ローム As系白色粒3%含む

- 4 灰褐色粘結粘粒砂 ATあり
- 5 褐色粘結粘粒砂ローム As-YP・ATあり
- 6 灰褐色粘結粘粒砂 As-YP3%含む
- 7 As-YP10%混入ロームとATを含む暗褐色中粒粘結砂の5/5混土
- 8 暗褐色粘結粘粒砂 As-YP10%含む
- 9 黄褐色粘結粘粒砂ローム As系白色粒3%含む
- 10 暗褐色粘結粘粒砂 As-YP・As系白色粒3%含む
- 11 暗褐色粘結粘粒砂ローム As系白色粒3%・As-YP2%含む
- 12 褐色粘結粘粒砂 ローム粒を40%含む
- 13 灰褐色粘結粘粒砂 As系白色粒3%・As-YPあり
- 14 灰褐色粘結粘粒砂 As系白色粒3%・ローム粒3%・As-Cあり
- 15 暗褐色粘結粘粒砂As系白色粒3%・As-YP・ATを含むロームブロック1%混入
- 16 地山(As-YPを含むハードローム)
- 17 暗褐色粘結粘粒砂にローム粒2%含む
- 18 カクレン
- 19 褐色粘結粘粒砂 As系白色粒3%・As-YP1%含む 根の侵入混あり
- 20 褐色粘結粘粒砂ハードローム As-YP10%含む
- 21 褐色粘結粘粒砂ハードローム As系白色粒3%含む
- 22 暗褐色粘結粘粒砂ローム As-YP10%含む 根の侵入混あり
- 23 暗褐色粘結粘粒砂ローム As-YP・As系白色粒3%・ATあり
- 24 灰褐色粘結粘粒砂 As-YP3%・As系白色粒3%・ATあり
- 25 褐色粘結粘粒砂ローム As系白色粒1.5%含む 遺物粒あり
- 26 灰褐色粘結粘粒砂 Hr-FP2%含む

J-4ビットセクション

- P-1
- 1 灰褐色粘結粘粒コロイド粗砂
 - 2 1層とAs-YP30%混入ハードロームの6/4混土

P-2

- 1 灰褐色粘結粘粒砂 ローム粒5%混入
- 2 1層とAs-YP30%混入ハードロームの6/4混土

P-3

- 1 As-YP混入ハードロームに灰褐色粘結粘粒コロイド粗砂を40%含む 遺物片あり
- 2 1層とAs-YP30%混入ハードロームの6/4混土

P-4・5

- 1 灰褐色粘結粘粒砂 ローム粒5%混入 遺物片あり
- 2 1層とAs-YP30%混入ハードロームの6/4混土

P-6

- 1 黒褐色粘結粘粒砂 Hr-FP3%混入
- 2 暗褐色粘結粘粒砂 As-C3%混入ハードロームと1層の3/7混土

P-7

- 1 暗褐色粘結粘粒砂 ローム粒5%
- 1' 暗褐色粘結粘粒砂 ローム粒7%
- 2 暗褐色粘結粘粒砂とAs-YP混入ロームの水平ラミナ

P-8

- 1 白浜じり敷土
- 2 黒褐色粘結粘粒砂
- 3 暗褐色粘結粘粒砂とローム粒の7/5混土
- 4 黄褐色粘結粘粒砂(As-YP3%混入のハードローム)

J-5セクション

- 1 黒褐色粘結粘粒砂 As-C・微小礫混入
- 1' 1層の粘結粘粒砂
- 2 黄褐色粘結粘粒砂 As-YP3%・As系白色粒2%含む
- 3 1層と2層の5/5混土 粘結粘粒砂
- 3' 3層に侵入 粘結粘粒砂
- 4 暗褐色粘結粘粒砂 As-YPロームあり

抄 録

フリガナ	カミイズミタロウサンマイエセキ
書名	上泉太郎三前遺跡
副書名	民間開発(マンション建設)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ	
編著者名	新保一美(スナガ環境建設株式会社)
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664番地の4
発行年月日	西暦1998年12月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード			調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号	位置				
カミイズミタロウサンマイエセキ	カミイズミタロウサンマイエセキ	10201	10D13	北緯 36°23'49"	東経 139°07'08"	19980907 19980930	280㎡	マンション建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
上泉太郎三前遺跡	住居址	縄文時代前期	住居址5軒	深鉢・浅鉢・甕・石弁・石皿・石鉢・石匙・窪み石等
上泉太郎三前遺跡	住居址	平安時代	住居址2軒	歌賀陶器・羽釜・土師器等



上泉太郎三前遺跡

1998年12月21日 印刷

1998年12月25日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664番地の4
編集 スナガ環境調査株式会社
前橋市青柳町211番地の1
